

令和 5 年 10 月 21 日現在

機関番号： 9 9 9 9 9
研究種目： 奨励研究
研究期間： 2022 ~ 2022
課題番号： 2 2 H 0 4 1 2 5
研究課題名 小学校の通常の学級における病弱教育の推進に関する研究

研究代表者

田中 亮 (TANAKA, Ryo)

長野県塩尻市立桔梗小学校・教諭

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 350,000 円

研究成果の概要：小学校には、病気の児童が多く在籍しているが、実際には未構築や機能不全の傾向にある支援体制があった。さらに、小学校の通常の学級における病弱教育の推進を促すプロセスとなり得る教育的資源を総合的かつ実践的視点による検討したところ、「教職員の主体的な研修受講と校内外の研修の接続を意識した教職員の資質能力の向上」と「『基礎的』『潜在的』『現代的』のそれぞれの多職種連携・協働」の2つが明確化された。それらを踏まえ、小学校の通常の学級における病弱教育の推進のプロセスは「現行の法令・通達等の抜本的かつ具体的な改善」と「各学校の実情に合わせた現実的な視点での取り組み」の2つの視点であると結論付けた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題では、(1)小学校の通常の学級における病弱教育の推進に関する網羅的・探索的な調査と検討を行い、小学校の病弱教育の現状の全体像を捉えた。それとともに、(2)推進のための教育的資源を明らかにし、(3)それを用いた法制度改革の提案と校内における推進パッケージの作成を行い、推進のプロセスを明確にした。これらの研究成果は、病弱教育研究の基礎と実践の両面、ひいては、小学校教育及び特別支援教育全体の発展にかかわる重要な知見を提供し、学術的・社会的に重要な価値があるものとなった。

研究分野： 特別支援教育

キーワード： 病弱教育 通常の学級 校内支援体制 小児慢性特定疾患 小学校 特別支援教育

1. 研究の目的

地域の小学校に多くの慢性疾患等の病気の子どもが多く在籍するようになった現在、支援体制の構築は必須となっている。そこで、小学校の通常の学級における慢性疾患等の病気の子どもの支援体制構築に向けたプロセスを明らかにし、病弱教育推進のための視座を明らかにすることを目的とし、小学校における慢性疾患を有する児童の支援体制の構築に向けて、現在行われている教員研修や病弱特別支援学校のセンター的機能、潜在的に行われている学校内の多職種協働の実態と傾向、および、成果と課題について調査・検討する。

2. 研究成果

小児の入院の短期化・頻回化に伴い、病気を有する児童の学びの場は小学校の通常の学級に広がりを見せている。しかし、小学校の通常の学級における病弱教育は、概論的な検討や方法論の提案によってのみ論じられることが多く、十分な知見は整っておらず、推進の道筋が未解明であった。そこで、本研究課題では、小学校の通常の学級における病弱教育の推進に向けた視座を明らかにすることを目的とした。

小学校の通常の学級における病弱教育の推進状況に関する実態調査を網羅的に行ったところ、その結果により、研修効果の実証と入院児童や病気による長期欠席児童への教育的支援への課題が明らかとなり、推進のプロセスと資するものは、教職員の資質能力の向上と多職種連携・協働が教育的資源（リソース）になることが示唆された。

そこで、研究7では校外研修、研究8では校内研修に関する調査を行った。その結果、校内研修と校外研修のリンクや教職員の個と学校全体のそれぞれの学びが還流型に深まることで、資質能力を共同構成的に向上させていくことにつながるということが示唆された。

また、研究9では多職種連携・協働の実態を調査し、それをもとに、研究10～12では、支援員、看護師免許を有する教職員、学校給食職員のそれぞれを対象にさらに掘り下げて、それら職種による支援の成果と課題を調査することで専門性の探索を行った。

これらの知見を総合すると、以下の通りに本研究課題は結論付けられた。

(1) 小学校には、病気により配慮・支援が必要な児童や入院児童、長期欠席児童等が多く在籍しており、これらの児童に対して必要とされながらも、実際には未構築や機能不全の傾向にある支援体制があることを明らかにした。特に、発展的な校内支援、入退院時の支援、心身症・精神疾患児童への支援・研修の実施はそれぞれ少ない状況であった。現状の成果と課題、病弱教育の意義、病弱教育諸学校での取り組みを参考とし、専門性の向上を図る必要がある。

(2) 小学校の通常の学級における病弱教育の推進を促すプロセスとなり得る教育的資源を総合的かつ実践的視点による検討したところ、教職員の資質能力の向上と多職種連携・協働の2つが明確化された。

校内支援体制構築にあたり、研修効果の実証がなされ、教職員の主体的な研修受講が期待できる。さらに、校外研修との接続により最新の知見が学校現場に伝達されること、教職員のニーズに合わせた研修を多職種連携・協働と関連させて行うこと、教職員が共同的に学びを醸成していくことが重要な視点として示唆された。

病気を有する児童の支援には、「基礎的」「潜在的」「現代的」の非常に多くの職種がかかわっており、それぞれの有する高度な専門性が明確化された。多職種連携・協働を基盤的な支援システムに参画させていくことで、役割の拡大・派生が生じ、発展的な体制の構築につながり得ることが示唆された。また、勤務上の不安定さや情報共有等の課題・懸念を解消するためには、基盤的な支援システムに連携・協働先も専門職として積極的参画を促すことや自治体の理解・協力が重要となることが示された。

(3) 小学校の通常の学級における病弱教育の推進のプロセスを「現行の法令・通達等の抜本的かつ具体的な改善」と「各学校の実情に合わせた現実的な視点での取り組み」の2つの視点から捉えた。

病気を有する児童が必要としている、あるいは、教職員研修を行っているにもかかわらず未構築が多い支援内容の改善には、担任教員や学校単独の取り組みに限界があり、国や自治体の理解・現行制度の改革が必要なものであった。具体的には、管理職や教育委員会職員を対象とした研修の実施、学籍異動問題の解消、加配教員の配置、支援員・看護師・ICT支援員等の常勤化、多職種連携・協働の高度な専門性を活用できる環境整備、教職員の資質能力の向上における現代的課題の単位化等を提案した。

現行の法令・通達において現実的な視点で病弱教育を推進するために「小学校の通常の学級における病弱教育推進パッケージ」を本研究課題の検討をもとに作成した。これにより、各学校の実情に合わせた現実的な取り組みの指針・方策を提案することができた。

本研究課題では、(1)網羅的・探索的な調査と検討を行い、小学校の病弱教育の現状の全体像を捉えるとともに、(2)推進のための教育的資源を明らかにし、(3)それをういた法制度改革の提案と校内における推進パッケージの作成を行い、推進のプロセスを明確にしたことは、病弱教育研究の基礎と実践の両面、ひいては、小学校教育及び特別支援教育全体の発展にかかわる重要な知見を提供し、学術的・社会的に重要な価値があるものとなった。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中亮 奥住秀之	4. 巻 74
2. 論文標題 小学校における病気を有する児童の支援に関する多職種連携・協働の実態：教育課程編成及び指導の充実・改善を見据えて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 255-265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中 亮、奥住 秀之、大井 雄平	4. 巻 6
2. 論文標題 小学校の通常の学級における小児慢性特定疾患児童にかかわる特別支援教育支援員配置の成果と課題：専門性としての復学支援と教育相談的役割を見据え	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育研究実践報告誌	6. 最初と最後の頁 51～57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002405	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 順之介、田中 亮、奥住 秀之、大井 雄平	4. 巻 6
2. 論文標題 病弱教育における外国語活動・外国語科の指導：障害に応じた指導上の工夫に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育研究実践報告誌	6. 最初と最後の頁 41～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002404	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木 利樹、田中 亮、奥住 秀之、大井 雄平	4. 巻 6
2. 論文標題 特別支援学校における道徳科授業の実践に関する研究動向：学習指導要領に基づく指導・支援と教育課程編成の充実に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育研究実践報告誌	6. 最初と最後の頁 8～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002376	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田中亮 奥住秀之
2. 発表標題 小学校の通常の学級における慢性疾患児童に対する校内支援体制の構築
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------